

# 流通とSC・私の視点

2017年2月20日

視点(2059)

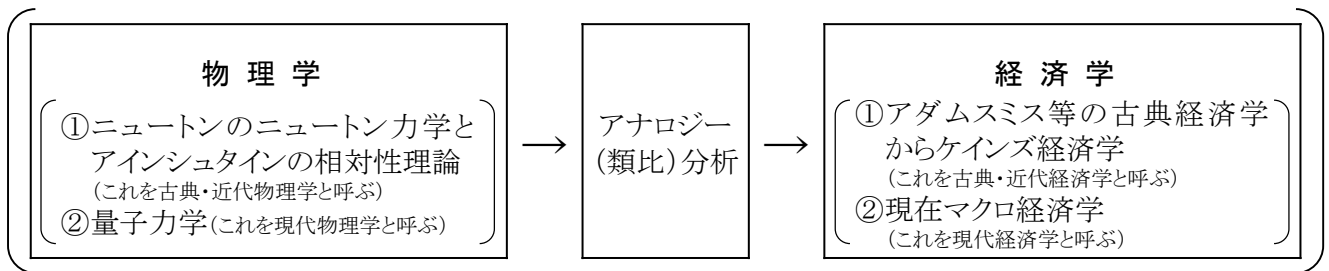
マダガスカル kitsunezaru の“種”の多様化とSCノウハウへのアナロジー分析!!

(研究思考と成果の概念編)

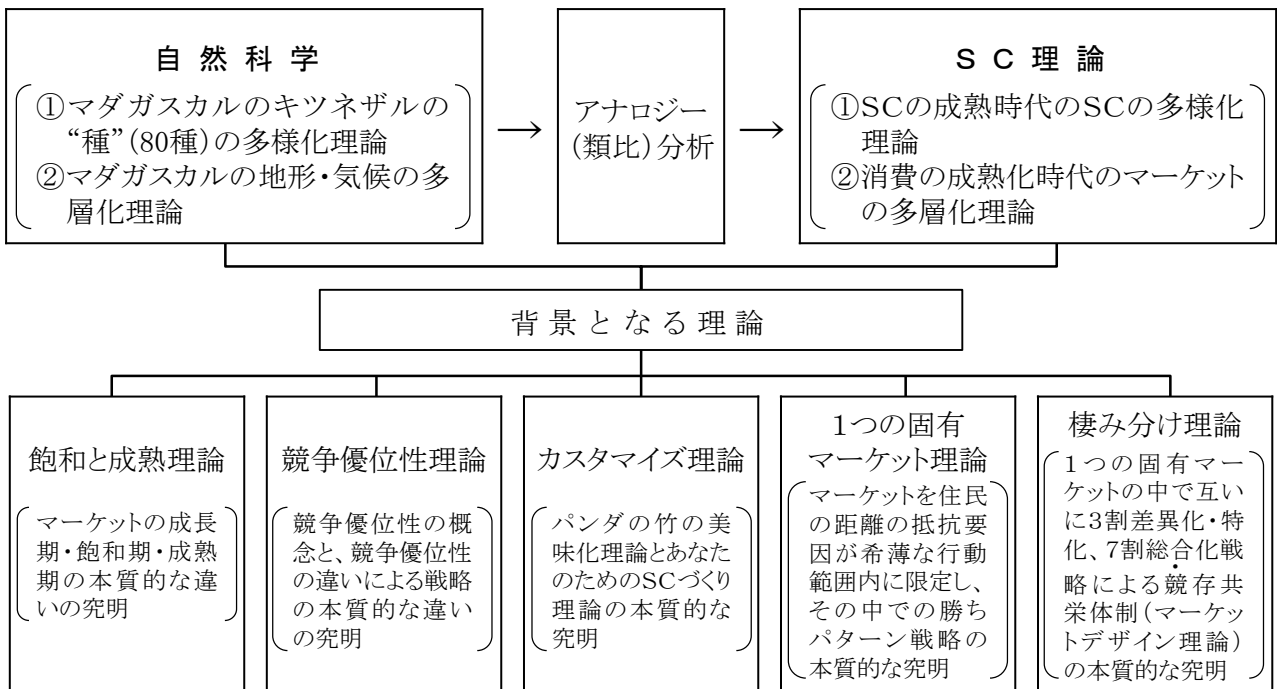
特定の分野の成立・成功のメカニズムを他の分野の成立・成功の先進メカニズムで説明することを「アナロジー(類比)分析」と言います。

経済学は、先進学問分野の物理学とのアナロジー分析により発展しました(日経新聞・経済教室・2017年2月20日号・小林慶應義塾大学教授)。

私は、成熟時代のSCの発展理論をマダガスカル kitsunezaru の“種”の多様化現象から、自然科学とSC理論のアナロジー分析をしています。



<SC理論>



マダガスカル kitsunezaru が“種”の多様化(80種)により大繁栄するためには、マダガスカル島の地形や気候の多層化が前提となります。食物(マーケット)が飽和状態になると kitsunezaru が増加するためには、新たな食物(マーケット)の開拓が必要となります。

いくら kitsunezaru が進化して種を増やしても、新たな食べものとして可能性のある多種多様な小動物や植物がなければなりません。多種多様な潜在的食べものはマダガスカルが地形や気候による多層性があるから可能となっています。

SCも成熟期になるとマーケット(消費)が多層化(モダン消費時代はマーケットは多層化が希薄ですが、ポストモダンやニューモダン消費時代になるとマーケットは多層化)するため、SCの飽和状態の中でSCのイノベーション(企業家精神に基づく需要創造や顧客創造)が起こると、受け皿として多層化したマーケットが大きな役割を果たすこととなります。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>7

代表 六車秀之